



未来へつなぐ

Vol.

167



文／本間 吾里砂

半導体工場の建設が始まった千歳市内にタイプの異なる宿泊施設が登場
キハ281系を体感できるトレインルームとコンテナ型無人宿泊施設

キハ281系を後世へ トレインルームを新設

JR千歳駅のすぐそばに建つホテル「JRイン千歳」が、二〇二三年九月に開業五周年を迎えました。それを記念し、キハ281系をコンセプトとした「キハ281トレインルーム」を新設。同車両のラストラン実施後一年を迎える二〇月二十三日から利用が始まりました。キハ281系は、二八年にわたり「スーパー北斗」および「北斗」として札幌―函館間を運行した振り子式特急列車。当時は気動車として日本の速さを誇っていました。実車



キハ281トレインルーム

から取り出した鉄道部品などが設置された同ルームは、「キハ281を自由に見て、さわつて、撮影して、体感できる」のが特徴。運転台、車掌室放送マイク、チャイム、グリーン車座席、ドア開閉スイッチはどれも実物で、運転台については前面展望動画を見ながら操作することができ、また（動画と運転台の動作は連動しません）。利用者には、運転士が使用する携帯時刻表のレプリカやキハ281系車両の写真を使用したオリジナル宿泊証明書がプレゼントされます。なお、同ルームの宿泊料金は二室二名で三万円（税サ込み、未就学児は添い寝無料）から。

一方、「JRイン函館」では、JRインブランド初のコンセプトルームとして、すでに二〇二二年十二月一日から「キハ40トレインルーム」の利用が始まっています。同ルームには、国鉄時

代から使用してきたキハ40形の部品や運転台などが設置され、鉄道ファンだけでなく、観光客にも人気を呼んでいます。それが「キハ281トレインルーム」を新設する後押しとなりました。

JRモバイリン二号店 長期滞在にも対応

二〇二四年三月、同じく千歳市内に、コンテナ型無人宿泊施設「JRモバイリン千歳」が開業します。同施設は、二〇一九年十二月、札幌市内に開設した「JRモバイリン札幌琴似」に続く二号店。観光



JRモバイリン千歳（イメージ図）

やビジネスで訪れるお客さまの増加やラピダス社による半導体工場建設で宿泊需要が見込めることから、千歳市への進出が決まりました。

千歳市を拠点とする（株）アーキビジョン21による日本最大級の木造ムービングハウス「スマートモデューロ」を使用し、全シングルタイプ二〇室を設置。バス・トイレに加え、キッチンや洗濯機を完備し、長期滞在でも快適に過ごせる仕様になっています。また、千歳駅から約二キロの沿線に位置し、千歳ICから三キロ、国道36号および国道337号にも近く、列車でも車でもアクセス良好。半導体工場へも約五キロと、移動の苦労ありません。時期などで変動しますが、料金は一泊二万円程度を予定。運営側にとつては、需要の状況に応じてコンテナを移設・増設できる点も魅力の一つです。